

(様式1)

青森県立保健大学と団体との協働事業令和元年度協働事業評価シート

■協働事業概要【公開】

事業名	子育て応援ルーム(多世代交流広場)ココかれっじ 事業
大学担当教員/課	看護学科 准教授 佐藤愛 / 地域連携推進課
団体	特定非営利活動法人子育て応援隊ココネットあおもり
事業内容	<p>【事業目的】</p> <p>①子育て中の保護者に寄り添うことで、青森の将来を担う子どもたちの健全な育ちを支える。</p> <p>②母親同士や多世代交流を通して子育て中の女性が前向きになり、その事が地域の活性化と社会で子どもを育てる環境づくりを構築する。</p> <p>③ココかれっじをスタッフの人材育成の場とし、また将来子育てを支援する側で活躍するロールモデルとして提示する。</p> <p>④若い世代(学生)と子育て世代の交流を図る。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none">・大学施設を利用し、月3回(第2・第3・第4水曜日、祝日を除く)10:00~16:00まで、広場の開設と月1回(第1又は第5水曜日)スタッフミーティングを実施する。・広場開設に合わせて奇数月の第4水曜日には、保護者向けの託児付ミニ講座を開催する。・大学祭に参加し、活動の周知と交流を図る。 <p>具体的には、ボランティアスタッフ(ホームスタート・ホームビジター養成講座修了者)が常駐し、親子が気軽に利用できる雰囲気づくりに努め、子育て中のストレス解消につながるような寄り添いと傾聴で支援する。</p> <p>ミニ講座・ミニイベントは、奇数月に大学関係者の協力のもと、子育てや健康管理、コミュニケーションなど、生活に役立つことを学ぶ。偶数月は、ココネットスタッフや地域の有償ボランティアが、親子で楽しめるようなちよつとしたイベントを企画する。</p> <p>大学祭では、親子で楽しめるようなワークショップと、コーヒーや手作り品・リサイクル品販売の企画運営をする。</p> <p>偶数月のミニイベントや大学祭のワークショップに数名の学生ボランティアを募り、イベントに協力してもらいながら親子とふれあえる機会(多世代交流)にする。</p> <p>※ホームスタートとは、養成講座を修了したボランティアの先輩ママが、妊婦または6歳未満の子どもがいる家庭に週1回2時間無料で出向き、傾聴と協働の支援をする「家庭訪問型子育て支援」。</p>
実施(契約)期間	平成31年4月1日~令和2年3月31日 【 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 <input type="checkbox"/> 新規事業 】
予算額	<p>【ココネットあおもり負担】</p> <p>消耗品費:18,000円(チラシ印刷用紙等)</p> <p>【県立保健大学負担】</p> <p>謝金:17,000円(ワークショップ:講師謝金)</p> <p>交通費:44,000円(ワークショップ:講師旅費(東京1泊2日))</p> <p>委託費:39,600円(シッター代1,100×6人×6回)</p>
実績 (※事業継続中の場合は、12月1日時点の実績を記載)	別紙参照

(様式1)

■プロセス評価【公開】(実施中の場合は、12月1日時点での評価)

※下記の項目について、該当する番号を評価欄に記入してください。

評価… A:よくできた B:ある程度できた C:あまりできなかった D:できなかった E:該当しない

「E」を選択した場合は、下記記述欄にその理由を記入してください。

		評価欄		
		団体	大学	
事業実施前	1	協働で事業を実施する目的を両者で確認したか。	A	A
	2	事業の成果目標を協議のうえ決定したか。	A	A
	3	具体的な企画内容や実施内容を協議のうえ決定したか。	A	A
	4	事業を進めるための役割分担を協議のうえ決定したか。	A	A
	5	成果物(著作物)の帰属や公表、また、その活用の方法について協議したか。	A	A
事業実施段階	6	事業の進捗状況や必要な情報について共有化できたか。	A	A
	7	相手の得意な分野や弱い分野を理解し、協力しながら事業を進めることができたか。	A	A
	8	事業を進めるにあたり状況の変化に応じて、協議しながら柔軟な対応ができたか。	A	A
	9	お互いの機能を生かし、必要に応じて市民への参画を呼びかけたか。	A	A
事業成果や波及効果	10	事業の成果目標は達成できたか。	A	A
	11	協働で事業推進することによって、単独で実施するよりも成果が上がったか。	A	A
	12	協働で事業推進することによって、組織にとって何か変化をもたらしたか。	A	A
	13	事業の結果(成果)などを広く情報提供したか。(予定がある場合も含む)	A	A
	14	市民自らが地域の課題解決に取り組む機運が芽生えるなど、従来よりも市民の参画機会が広がったか。	A	A
	15	経費の見積は適切だったか。	A	A
	16	トラブルが発生した際の準備や対応は適切に行われたか。	A	A
総合評価			A	A

「E: 該当しない」を選択した場合は、その理由を記入してください。

団 体	
番号	理 由

大 学	
番号	理 由

(様式1)

■成果と課題点【公開】

団 体	
協働することで成果があった点	課 題 点
<ul style="list-style-type: none">・大学の先生にミニ講座の講師や、団体で開催するビジター養成講座や保育サポーター養成講座の講師をお願いしたことで、子育て中の母親の学習や支援者の育成につながった。・大学の地域連携推進事業として「乳児の心肺蘇生法と窒息解除法講習会」などを協力して開催することで、保護者は正しい知識の習得ができ、講師と学生には実際に子育て世代と関わり、救命法の大切さを伝える機会になったと考える。	特になし

大 学	
協働することで成果があった点	課 題 点
<ul style="list-style-type: none">・大学の役割である「教員による専門知識の提供」について順調に遂行できた。・大学教員がミニ講座の講師を担当することで社会貢献に寄与できた。・学生が乳幼児と触れ合う機会が得られた。・大学の公開講座に共同で参加することにより、活動内容の周知に貢献できた。	<ul style="list-style-type: none">・教員や学生への認知度は少しずつ高まってきていると考える。今後も継続的にPRしていく必要があると考える。

子育て応援ルーム（多世代交流広場）ココかれっじ 2019年度実績（12/1 現在）

NPO 法人子育て応援隊ココネットあおもり

実施期間：2019年4月1日～12月1日

実施回数：4月～11月 23回

利用者数：923人（1回平均 40人）

ミニイベント：4月 手あそび体あそび（ココネットスタッフ）

6月 英語の絵本の読み聞かせ（小笠原メリッサ先生）

8月 わらべうた（ココネットスタッフ）

10月 大型絵本を読もう（ココネットスタッフ）

ミニ講座：5月 子どもの生活習慣について（谷川涼子先生）

7月 パパママの健康管理（千葉敦子先生）

9月 「伝える」というコミュニケーション（川内規会先生）

11月 日本でビックリ!! 異文化での子育て（小笠原メリッサ先生）

大学祭：親子ワークショップ「ちょきぺた工作人形劇」（人形劇屋たくたく堂さん）

※あおもり子ども劇場とのコラボ企画

《ココかれっじの様子》

4月



5月



6月



7月



8月



9月



10月・大学祭



10月



11月

